

事業報告書

団体名：障がい児支援団体 キッズ・バリアフリー

1. 事業名	障害者手帳をもらえない障害児への支援
2. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)
<p>平成26年4月9日 運営方法のアドバイス：京都府ソーシャルビジネスセンター</p> <p>19日 定例会：末吉宅</p> <p>15日 運営会議（総会準備）：浅野宅</p> <p>19日 総会、勉強会「子どもの軽度発達障害」：ガレリアかめおか3階</p> <p>5月3日 亀岡祭フリーマーケット参加：南郷公園</p> <p>11日 「亀岡市支えあいまちづくり協働支援金」事業報告会</p> <p>17日 定例会：ガレリアかめおか3階（京都新聞社が取材）</p> <p>6月1日 植物探検ウォークラリー（参加者51名）：京都府立植物園</p> <p>21日 中澤利彦ダンス講演（参加者25名）：ガレリアかめおか響ホール（京都新聞社が取材）</p> <p>7月11日 ホームページ、リニューアル会議：エバーグリーン</p> <p>20日 おやこ陶芸教室（参加者50名）：ガレリアかめおか陶芸室</p> <p>27日 流しそうめんパーティー（参加者50名）：藤原邸</p> <p>8月25日 おやこハンドマッサージ（参加者13名）：ガレリアかめおか和室</p> <p>9月5日 運営会議：末吉宅</p> <p>18日 手作り品ミーティング：末吉宅</p> <p>23日 京都北部聴覚障害者の暮らしを考える集い（活動報告）：京丹后市アグリセンター大宮</p> <p>27日 おやこハンドマッサージ（参加者40名）：藤原邸</p> <p>29日 Joint ママ、定例会：ガレリアかめおか3階</p> <p>10月2日 手作り品ミーティング：末吉宅</p> <p>6日 ホームページ、リニューアル会議：エバーグリーン</p> <p>25日 動物ふれあい体験（参加者35名）：京馬車</p> <p>11月10日 Joint ママ、定例会：ガレリアかめおか3階</p> <p>22日 おやこハンドマッサージ（参加者21名）：藤原邸</p> <p>12月22日 おやこ救急講習会&消防車両見学（参加者13名）：亀岡消防署</p> <p>27日 おやこ手作りパン教室（参加者39名）：ガレリアかめおか調理室</p> <p>1月26日 Joint ママ、定例会：ガレリアかめおか3階</p> <p>2月1日 京都丹波交流フェスティバル：ガレリアかめおかコンベンションホール</p> <p>12日 第1回食育研修会：ホテルルビノ堀川 朱雀の間</p> <p>3月6日 子育て支援団体・サークル交流会：南丹保健所</p> <p>12日 手作り品ミーティング：末吉宅</p> <p>24日 Joint ママ、定例会：ガレリアかめおか3階</p>	
3. 効果	実施による効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。
<p>平成26年3月での会員合計数は31名でしたが、一年後の平成27年度3月の現在会員合計数は97名と成長致しました。活動していく中で、ご理解の輪が広がっている成果。</p>	
4. 協働の効果	※企画提案型協働事業のみご記入ください
<p>※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。</p>	

- 平成 26 年 7 月 20 日 (ガレリア陶芸室)「おやこ陶芸教室」(午前の部、午後の部 合計参加者 50 名)



- 平成 26 年 8 月 25 日(ガレリア和室、参加者 13 名)、9 月 27 日(藤原邸、参加者 40 名)、11 月 22 日(藤原邸、参加者 21 名)「親子ハンドマッサージ」(合計 74 名の参加)



- 平成 26 年 12 月 27 日 (ガレリア調理室)「おやこ手作りパン教室」(参加者 39 名)



- ホームページでの情報発信、メールでの相談窓口 「ホームページ <http://www.kids-bf.jp/>」より相談しやすいページのリニューアルを 10 月に致しました。亀岡市だけでなく全国からの相談が日々メールにて寄せられています。(相談件数 6 月 2 件、9 月 1 件、12 月 3 件、1 月 5 件、2 月 12 件、3 月 2 件)



障害手帳ない子に理解を

亀岡の「キッズ・バリアフリー」活動1年



オリジナルTシャツを着て話し合っキッズ・バリアフリーのメンバー
(亀岡市余部町ガレリアかめおか)

補聴器購入補助 府などに要請

親子交流や勉強会も

軽度、中等度の難聴など障害がありながら、求められる自治体への理解や、障害のある子どもが障害者手帳が交付されない子どもたちも支援できない子の交流の場を設ける活動をしてきた。亀岡市の市民団体「キッズ・バリアフリー」メンバーは「みんなが理解し合える社会をつくりたい」と目標を掲げる。

団体は、中等度難聴、全域で同じ援助がないと、就職して自活の娘を持つ末吉理花(28)が、母親要請している。仲間内で呼び掛けて結成した。手帳が交付されない難聴児への補聴器購入補助は自治体に要請してはいるが、理解がよければらつきがある。親子交流や勉強会も、活動を進めるうち、発達障害やアスペルギーなどにも関心する親が出会った。「障害を乗り越えてはるつきがある。親子交流や勉強会も、活動を進めるうち、発達障害やアスペルギーなどにも関心する親が出会った。」「障害を乗り越えてはるつきがある。親子交流や勉強会も、活動を進めるうち、発達障害やアスペルギーなどにも関心する親が出会った。」

発達障害を支援する会を開いた。会員は市内内外合わせて約50人に増加。今後オリジナル絵本を制作して販売する計画で、補聴器や車いすの購入支援費に充てる予定だ。

末吉理花は「グリーソンの障害は対応してくれる場がなく、母親が自分で調べて何とかしないといけない。相談や情報交換ができるようにして、親子の悩みを減らした」と述べた。ホームページは www.kids-bj.jp、メールアドレスは [kidsbj@http://www.kids-bj.jp](mailto:mailto:kidsbj@http://www.kids-bj.jp) (久保田昌洋)

米で活躍 中澤さん踊る

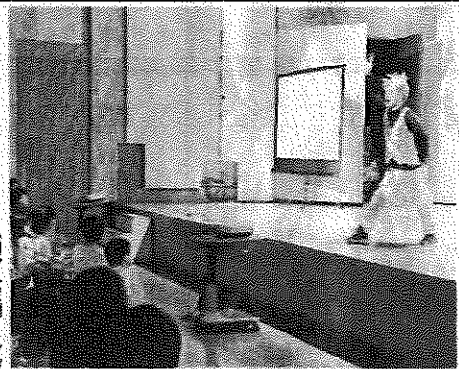
亀岡で21日、障害児支援公演

亀岡市の障害児支援団体「キッズ・バリアフリー」は21日、チャリティのダンス公演を兼ねた「米」をテーマにしたイベントを開催した。中澤さんは新潟市出身で、2010年からニューヨーク在住。アポロシアターの人気イベントで優勝するなど、米国を拠点に活動している。当日はダンスを披露するほか、日本で社会人を経て渡米した経験などについてのトークもある。午後3時半開演。小学生200円、中学生300円、大人千円。申し込みはキッズ・バリアフリー公演担当 0771(20)1955 (久保田昌洋)

2015年6月 京都新聞・丹波版

米在住の男性「夢を捨てないで」 子らにダンス披露

亀岡 障害児支援団体が公演



親子連れの前でダンスを披露する中澤さん
(亀岡市余部町・ガレリアかめおか)

亀岡市の障害児支援団体「キッズ・バリアフリー」が21日、チャリティのダンス公演を兼ねた「米」をテーマにしたイベントを開催した。約150人の親子連れが、逆立ちも華麗なアピンの踊りに歓声と拍手を贈った。(久保田昌洋)

「夢を捨てないで」を、ニューヨーク在住のダンス披露する中澤さん。中澤さんは大学卒業後、飲食店などで働いた後、ダンサーになる決心をして25歳で渡米。「新たなことを知ることが大切」と、現地の大会に挑戦した日々々のことも思いについて講演した。約150人の親子連れが、逆立ちも華麗なアピンの踊りに歓声と拍手を贈った。(久保田昌洋)

食品アレルギー(卵・牛乳)対応

冬休み おやこ手作りパン教室 English muffin

イングリッシュマフィンを手ごねで作ります。

食品アレルギーの有る無しに関わらずご参加ください。

(調理器具はガレリア亀岡の物を使用いたします。)

日時：2014年12月27日(土)

am10:00~pm14:00 (試食 pm13:00 を予定)

場所：ガレリアかめおか1F調理室

講師：パン教室 Peche 大井芽美氏

対象：どなたでもご参加可能です。(申込時に食品アレルギーの有無をお知らせ下さい。)

参加費用：子ども 500 円 (試食希望の乳児から小学生まで) 大人 1000 円

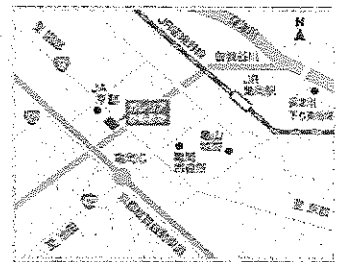
定員：25 名 (定員になり次第、締め切りとさせていただきます。)

申込締切：12月21日(日)

持ち物：エプロン・三角巾・タオル・飲み物

お申込み：080-9167-8757(中川)

Kids.barrierfree201354@softbank.ne.jp (お申込専用)

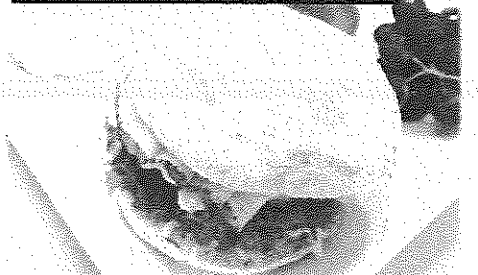


キッズ・バリアフリーは

「ハンデの有無に関わらず共に遊び学ぶ場づくり」
を企画、運営しています。



具材はハムまたはベーコンを予定しています。



障がい児支援団体

キッズ・バリアフリー



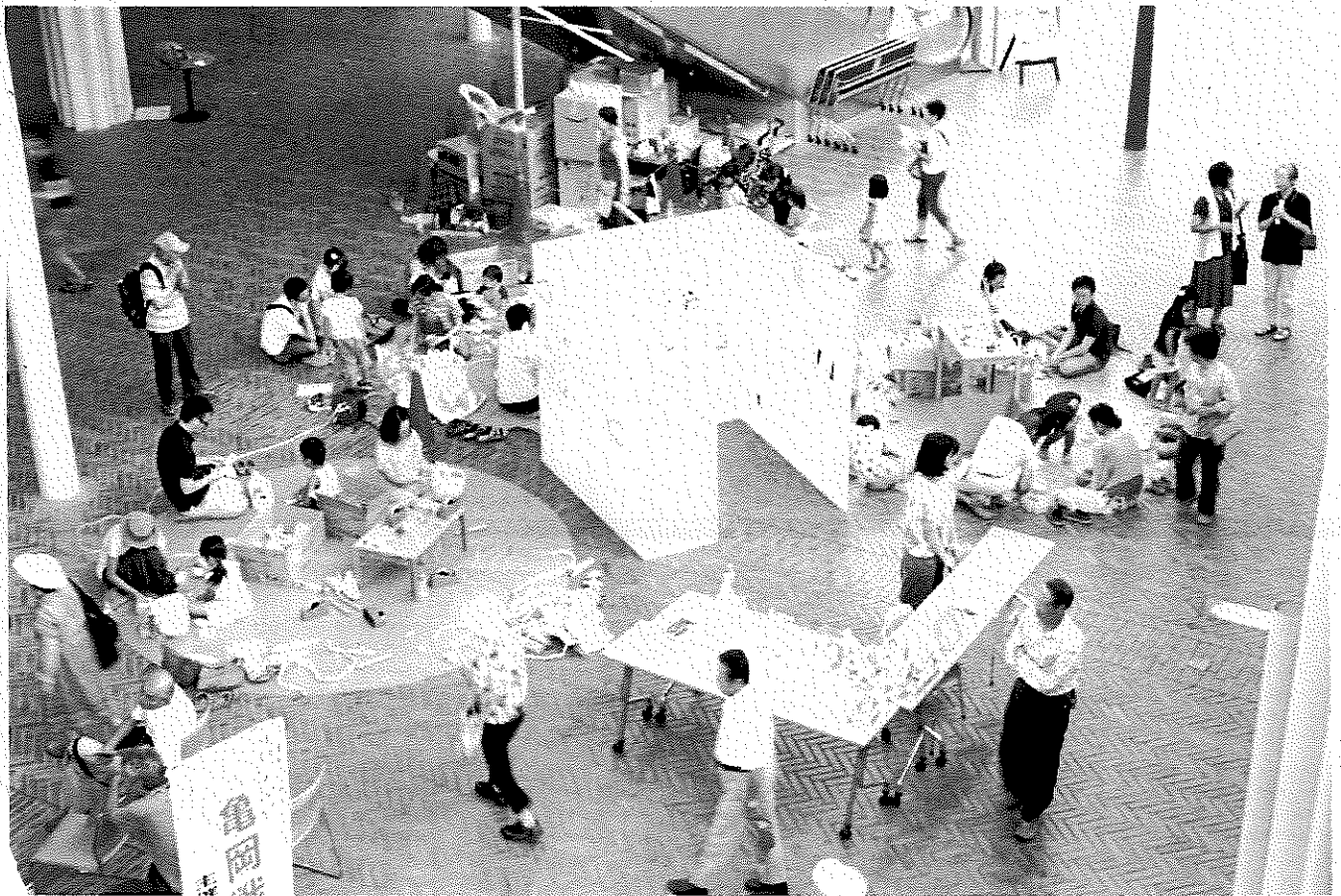
<http://www.kids-bf.jp/>

事業報告書

団体名：てくてくと遊ぼう会

1. 事業名	だれでもアーティストプロジェクト『ふねのパレード』
2. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)
<p>日時 2014年8月3日(日) 13時-16時</p> <p>場所 ガレリアかめおか 中央ロビーギャラリー</p> <p>参加者 約70人 作品数36点(親子参加のため)</p> <p>参加費 500円(1作品)</p> <p>展示 ガレリアかめおか ロビーギャラリー</p> <p>展示日時 2014年8月7日-8月27日</p> <p>事業内容</p> <p>アートを通じて、つくること、みること、たのしむことが身近になることを目指して始めたプロジェクトです。今回は洗濯バサミ、アルミホイル、食器洗いスポンジの中から1つの素材を選び、それらを好きなだけ使って「ふね」をつくります。完成した作品は8月7日～27日までガレリアかめおかで展示しました。2階部分からロープを張り、参加者の作品(ふね)を列(パレード)になるように展示しました。</p>	
3. 効果	実施による効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。
<p>だれでもと銘打って開催したワークショップで、参加者は素材である日用品と向き合い、楽しく作品を作っていました。親子で一緒につくる姿や大人が真剣に作品を作っているところがとても印象的でした。今回から参加費をいただくことにしましたが、そのことで参加者のモチベーションの違いを感じました。展覧会をすることが本プロジェクトのもっとも大事なことだったので、ガレリアかめおかの館内装飾事業として大々的に展示ができたのがよかったです。今まで見たことないような展示ができたことでワークショップ参加者だけではなく、子供からお年寄りの方まで訪れた人たちが足を止めて見ていました。</p>	
4. 協働の効果	<p>※企画提案型協働事業のみご記入ください。</p> <p>事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。</p>
<p>※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。</p> <p>※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。</p>	

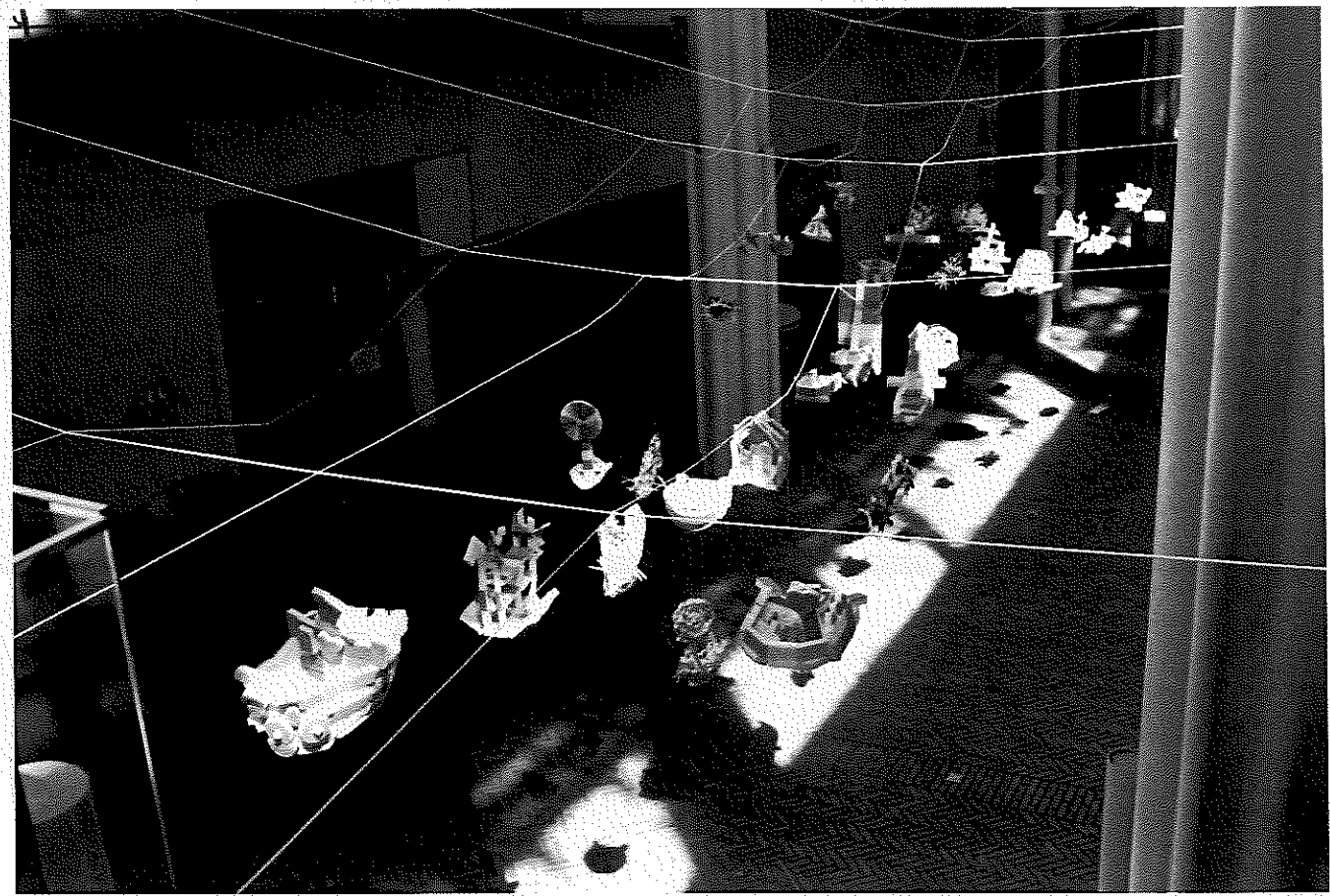
2014.8 『ふねのパレード』ワークショップ





14・8・7-8・27 『ふねのパレード』

てくてくと遊ぼう会 ガレリアかめおか 館内装飾事業





8月4日

月曜日



京都新聞社
The Kyoto Shimbun Co., Ltd.



食器用スポンジなどを組み合わせて船を作る親子連れ(亀岡市余部町・ガレリアかめおか)

日用品材料に船工作

家庭にある日用品を使って自由な発想で船を作る工作イベントが3日、亀岡市余部町のガレリアかめおかであった。参加した親子はアイデアを出し合い、個性的な作品を仕上げた。

同市篠町の造形教室「子どもアトリエてくてく」が運営するイベント団体「てくてくと遊ぼう会」の主催。約30人が参加し、洗濯ばさみや食器用スポンジなどの

親子でアイデア出し合う

中から材料を選んで工作に挑戦した。

参加者は材料をいくつも並べて船体らしい曲線を作り上げた。洗濯ばさみをつなぎ合わせて全長50センチ近い大作を仕上げた参加者もいた。安詳小1年の井口虹太郎君(6)は「船の上に鉄砲二つ、お風呂も作った」と満足そうだった。作品は7月27日の間、ガレリアかめおかロビーに展示する。

(小池直弘)

事業報告書

団体名：NPO 法人亀岡子育てネットワーク

1. 事業名	0・1・2・3歳親子 room COCOいく
2. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)

【事業期間：4月1日～3月31日】

くらす	開催日数	延べ参加人数	場所	
はじめてくらす (パピーマッサージ)	1ヵ月半～はいはいするまで 9回	79組 (158人)	ふらっと HOUSE	
ぐっぐくらす	ねんね～おすわりの頃 (4ヵ月～7ヵ月ぐらい) 10回 (約月1回)の月曜	79組 (158人)		
ちっちくらす	はいはいの頃 (8ヵ月～11ヵ月ぐらい) 10回 (約月1回)の月曜	79組 (158人)		
ぱっぱくらす	たっち・あんよの頃 (11ヵ月ぐらい～2歳) 10回×2くらす (約月1回)の月曜	139組 (278人)		
ドキはぴくらす	元気いっぱい頃 (2歳～就園前) 19回 第1・第3火曜	196人	旧一の宮幼稚園	
特別講座	救急救命のおはなし	1回(11/20)	4人	ふらっと HOUSE
	歯のおはなし	2回(11/7, 1/30)		
特別イベント 「みんなあつまれ！COCOいくっこ！」	1回(2/23)	23組 (46人)	ガレリアかめ おか響ホール	
計	72回 /	1,024人		

【内容】

現在亀岡において、家庭で子育てしている親子は、自由に遊びに行ける「ひろば」や地域に根ざした「サークル」などを自由に選択できたり、一時保育のある施設を選択できたりと、10数年前に比べると、とても子育てしやすいように変化してきている。にもかかわらず、出産から乳児期・乳幼児期にかけ、家に閉じこもりがちで、人とかかわりを持ちにくい人たちも多数みられ、子育て期特有の孤独と不安を感じている人が多い。また、社会の変化に伴い、メディアの影響や電子機器の影響を多数受け、便利な子育てアプリ等の乱用により大切な親と子どもの本当のふれあいが希薄になってきていると感じる。これらは、年々増加傾向にある核家族の家庭においては、祖父母や近所のおせっかいなおばさんなどから昔ながらの子育てのノウハウを教わる機会が減少したことや、情報化社会ゆえの情報の氾濫が原因と考えられる。また、出産年齢が20代前半から40代前半と幅広く、特に30代後半から40代前半に出産し子育てに奮闘している方の多くは、わからないことを気軽に聞きにくい傾向にあり、「ちゃんと育てなければ」というプレッシャーから精神的に疲れやすい傾向がみられる。そして、出産年齢の高齢化とともに、祖父母の高齢化が考えられ、祖父母を頼れないというのも実情である。かと思うと、20代前半で出産した方の中には、祖父母も若く現役で仕事をしているが為に、気軽に

頼れないという傾向もみられる。いずれにしても、子育てにおいて、核家族化が母親の孤独感や不安感を拡大させ、気軽に話せたり聞いたりできる機会を持ちにくい原因の一つとなっている。また、私たち亀岡子育てネットワークでの他事業「ゆりかごひろば」や「講座」や「一時保育」等で、現在の親子と数多く関わるうち、育児書やメディアから与えられるいろいろな情報ではなく、その子どもに合った子育てのノウハウを伝えるべきではないかと考えた。また、ひろば等で相談を受ける中で、これからの課題は、母親の心の安定をはかり、子育てが「つらい」だけではなく「楽しい」と感じられるよう、そして少しでも孤独感や不安感を減らし、笑顔を増やし、一人一人の親が力をつけていけるようフォローして行くことが必要なのではないかと考えた。

そこで、この“COCO いく”では、前年度は生後4ヵ月から参加できる講座を開催してきたが、今年度はもっと早い段階から外に出るきっかけがもてるよう、生後1ヵ月半から参加できるベビーマッサージ講座を追加した。ベビーマッサージ講座では、母親が外に出て誰かと話をし、子育ての孤独感や不安感を減らしたり、親子が肌と肌でふれあい、子どもはもちろんのことそれ以上に母親が心地よい気持ちになり、親子の愛着が深まることを目的とした。また生後4ヵ月から保育所（園）幼稚園へ入園するまでの親子には、その子どもの月齢によってクラス分けをし、月齢や発達に合わせて親子が自然にふれあうことできるあそびを通して親子の愛着形成を促し、また、子育てのノウハウを伝えることで子育て期の不安や大変さを乗り越え、子育てが楽しいと思えるように導いていけることを目的とした内容とした。さらに、母親の心の安定が子どもに大きく影響することをふまえ、母親が他の参加者やスタッフとコミュニケーションをとるうちに、心が安定していけるような内容とした。そして、「母親が笑っていると、子どもも笑ってくる」「母親が楽しいと、子どもも楽しくなってくる」ことを伝え、まずは、ゆったりと子育てできるような気持ちに導くよう配慮した。また、それぞれの子どもの特性を認め、その子どもが本来持っている力を自然に引き出せるよう工夫する内容とした。

他にも今年度は、普段はくらす別に参加している親子が一同に集まってふれあえるよう、特別イベント「みんなあつまれ！COCO いくっこ！！」を開催した。生後4ヵ月～2歳までの幅広い年齢の親子が参加することで、子どもの少しずつの成長が感じられる内容とした。

以下、各クラスの内容。

○「はじめてくらす（ベビーマッサージ講座）」 生後1ヵ月半～はいはいするまで
（兄弟の保育付き）

10時～12時：助産師によるベビーマッサージ。ママのティータイム、交流。

○「ぐっぐくらす」ねんね～おすわりの頃 生後4ヵ月～7ヵ月ぐらい

「ちっちくらす」はいはいの頃 生後8ヵ月ぐらい～10ヵ月ぐらい

「ぼっぼくらす」たっち・あんよの頃 生後11ヵ月ぐらい～2歳

（兄弟の保育付き）

10時～11時：親子のふれあいあそび、てあそび、リズムあそび、運動あそび、ママのストレッチ、クッキング、季節の歌、季節の製作、手作りおもちゃ、絵本の読み聞かせなど

11時～12時：子育てのお話し、ママのティータイム、子どもの成長の記録（アルバム）作り
ママ同士の交流、悩み相談など

○「ドキはぴくらす」元気いっぱい頃 2歳～

10時～12時：4、5月の親子体験後、6月からは子どもだけの活動。

3月17日は親子でのおたのしみ会

リズムあそび（歌・楽器）、運動あそび、えのぐあそび、新聞あそび、表現あそび、絵本の読み聞かせなど

○「救急救命のおはなし講座」（保育付き）

10時～11時：市の救急救命士による乳幼児のけがや病気の話や対処方法についての講座

11時～12時：質疑応答、参加者同士の交流

○「歯のおはなし講座」

10時～12時：歯科衛生士による子どもの歯の話や、母親の歯のケア等の話。

参加の子どもの歯のチェック、質疑応答、参加者同士の交流

○特別イベント

「あつまれ！COCOいくっこ！！」生後4ヵ月～2歳

10時半～11時半：親子のふれあいあそび、「おはなしポケット」さんによるおはなし運動あそび、バルーンあそび、写真展示

3. 効果 実施による効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。

【はじめてくらす】 生後1ヵ月～はいはいするまで

参加者の多くは、チラシや亀岡市の発行の広報を見てドキドキしながら参加申し込みし、産後初めてこういった場に出かける方、一人で参加される方が多数を占めた。その多くは、参加当初、子育てに戸惑いと不安を持っており、母親の表情も硬く心も体も緊張している様子がみられ、参加者同士もなかなか交流しにくい様子であった。

今年度は生後1ヵ月半から参加できるよう講座を設定した結果、産後の早い段階から家にとじこもって孤独や不安を感じている母親が外に出て人と交流するきっかけを作れ、母親同士やスタッフと交流したり、親子がふれあうことで、孤独や不安をやわらげることができたことは大きな成果といえる。また、母親同士が連絡先を交換するなど、ママ友だちを作れるきっかけとなったことも大きな成果だろう。そして、初めのうちはどんな感じで、どのくらいの力加減で赤ちゃんをふれていいのかがわからなかった母親も、少しずつ少しずつそのぎこちなさがほぐれていき、また、助産師から産後の母親の話を聞いたり、赤ちゃんのお世話についての話を聞いたり、あったかいお茶とお菓子を食べながら参加者同士交流したりするうちに、心と体の緊張もほぐれ、こわばっていた母親の顔が少しずつ笑顔に変化していった。

【ぐっぐくらす】 「ねんね～おすわりの頃」生後4ヵ月～7ヵ月ぐらい

やはり、参加者の多くは、産後初めてこういった場に出かける方や、一人で参加される方が多く、子育てに不安を持って参加される方が多くみられた。母親の表情は硬く、やはり心と体が緊張している様子がみられ、赤ちゃんを抱く姿もぎこちなく、どのぐらいふれていいのか、どの程度の動き（ふれあい遊び）なら大丈夫かもよくわからない方がほとんどであった。そこで、母親の心身の緊張をほぐす為に、母親のストレッチを取り入れたり、子どもの体に自然に触れられるよう親子で遊びを通して「赤ちゃんをまるく『ギュッと』抱きしめる」「目を見つめ合ってお話」「目を見て話しかける」「抱っこしてゆれる」「声をかける」ことを具体的に、そして何度もくり返し伝えられるよう工夫していった。

その結果、講座の途中や、続けて参加しているうちに母親の表情も少しずつ変化し、とてもやわらかな笑顔が見られるようになってきた。また、なるべく母親が「声」を出ることができるよう、「自己紹介」や「今日のお題のおはなし」タイムなど他の参加者と話ができる「しかけ」を設け、スタッフや他の参加者と会話をするうちに、心の緊張もほぐれ、楽しんで子どもとふれあい遊びをすることができるようになってきた。やはり、スタッフや他の参加者と話をすることで、心のリフレッシュができ、心がやわらいぎ、孤独や不安の解消へとつながったと考えられる。また、周りの子どもに刺激を受け、つぎの動きへ進みたいと感じている子どもの姿が見られた時には、大人のほんの少しの補助で子どもが次のステップへと進めることを伝え、子どもにとって無理強いせず導くようなコツを伝えたことで、母親はコツをつかみ、楽しみながら子どもの次のステップへのお手伝いができるようになっていったと考える。また、その日のテーマに沿った子育ての話の中で、子どもの発達や行動の意味、遊びがもつ意味を伝えることで、子どもの特性を理解し、より一層親子の遊びを楽しむことができるようになったと考えられる。そして、母親が子どもとふれあうことを楽しむことにより、子どもも母親の目を見つめほほえみ、そしてまた、その子どものほほえみを見て母親がほほえむといった相互作用で、お互いの見つめ合いが親子の愛着形成において、よりよい方向へとつながっていった。

【ちっちくらす】 「はいはいの頃」生後8ヵ月ぐらい～10ヵ月ぐらい

“ぐっぐくらす”から引き続き参加している方は顔見知りにもなり、毎回笑顔で参加しているが、“ちっちくらす”から初めて一人で参加した方はやはり緊張の面持ちで、心も体も緊張している様子がみられた。そんな緊張をほぐせるよう、また他の参加者の中で孤独感を感じないようにスタッフが配慮し、楽しさを感じて次回も参加したいと思えるように丁寧に対応した。親子の遊びも、参加者が子どもの成長が感じられるよう、また「こんなことができるようになった」と喜びを感じられるよう、少しずつ遊びを変化させていくが、遊びの基本である「抱きしめる」「見つめる」「声をかける」をくり返しくり返し伝えられるようにしていった。また、おもちゃに興味が出始めたこの頃、家にあるものなどで簡単に作れるおもちゃと一緒に製作したり紹介したりしながら、高価なものでも身近な物や遊び方で子どもにとっては良いおもちゃになることを伝え、遊びがコミュニケーションの一つであり子どもが成長する上でとても重要なことであることを伝えた。

その結果、子どもと何度も何度も声をかけてふれあって遊ぶ楽しさを味わい、母親の笑顔も少しずつ増えていった。また、母親も子どもとふれあうことに自信が出始め、子どもとふれあう度合いや力加減も少し大胆になってくると、子どもの喜ぶ表情もより豊かになっていった。すると、母親もより楽しく遊ぶことができ、親子で声を出して楽しむことができるようになってきた。くり返し遊ぶことの大切さや、目を見つめて遊ぶことの大切さを伝えていくうちに、母親も子どもと向き合って遊ぶ楽しさを実感できたようだ。また、場所にも雰囲気にも慣れ、スタッフと話す内容も少しずつ変化し、成長を喜ぶ話とともに、気軽に悩みを話せる場となったことは、母親の不安を解消するうえで大きな成果といえる。

【ぱっぱくらす】 「たっち・あんよの頃」生後11ヵ月～2歳

“ちっちくらす”から続けて参加される方が多く、毎回とても和やかな雰囲気の場になった。このクラスでも、新しい参加者が、継続して参加している方の輪の中で孤独や不安を感じないように、スタッフが配慮していった。子どもの成長と共に、親子の遊びにも幅が出てくるので、なるべく親子で体を使った遊びができるような内容を工夫した。基本である親子のふれあい遊びを中心に、はいはいしたりジャンプしたりと体全体を使った運動遊びやマラカスや鈴、ダンボール太鼓など音やリズムを楽しんで遊んだり、親子で楽しく遊べるよう工夫し

た。また、家にある新聞紙やダンボール、廃材（トレイなど）を使って、家庭でも楽しく遊ぶことができる方法を紹介したりと、簡単かつ楽しい遊びを随時伝えていったり、簡単な料理を一緒にすることで、子どもが楽しんで調理したり、食べたりする姿の大切さを伝えていった。同じ遊びでも、子どもによっては遊び方も違ったり、遊びが変化したりすることに参加者たちも驚き感動し、大人が子どもの遊びをそっと見守りつつ、時には相手になり、子どもの持つ力を引き出せるようなコツを伝えていった。そして、やはり「抱きしめる」「見つめる」「声をかける」をくり返しくり返し伝えていった。

その結果、継続して参加している方のほとんど全員が、親も子も「楽しい！」という表情で過ごし、心が安定している様子がうかがえた。そして“ぐっぐくらす”“ちっちくらす”から参加している方の中で、参加当初は子育てが「しんどい……」「つらい……」と訴えていた方も笑顔が増え、元気な様子になっていき、子育てが「つらい」だけのものではなく「楽しい」と感じられるようになったことは大きな成果といえる。

【ドキはびくらす】「元気いっぱい」の頃 2歳～未就園児

昨年度から継続して参加する子どもは慣れた様子で、月に2回のこのクラスを楽しんだ。初めて参加する親子は親子共々、「親子が離れる」ということに不安いっぱいでの参加だった為、その不安を少しでも解消できるよう保護者に対しても、子どもに対しても、一人一人丁寧に対応していった。保護者に対しては、お迎えの時に子どもの様子を詳しく話したり、写真やおたよりを発行することで不安を解消していった。また、子どもができるだけ遊びの中でいろいろな経験ができるよう配慮し、また一人一人の遊びを大事にしながら、友達同士の関わりが持てるよう配慮した。中にはその時間にその遊びを嫌がる子どももいたが、強制するのではなく、無理のない形で遊べるよう工夫し、そのことが保護者にとって「うちの子だけ……」と感じないよう、スタッフが配慮していった。

その結果、保護者と離れる時に泣いていた子どもも、回を重ねるごとに笑顔が増え、その笑顔に保護者も安心していった。また、子ども一人一人に対するスタッフの丁寧な働きかけにより、子ども自身が親以外の大人に認められていることを感じ、ますます心が安定していった。そして遊びに夢中になることができ、遊びを通じていろいろな体験をすることができた。また友達も認められるようになり、友達とやりとりしたり、おもちゃの取り合いをしたりと友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じるようになった。特に、絵本の読み聞かせの時には、みな絵本の世界に引き込まれ、何度も繰り返して聞いている様子からは、心の安定が感じられた。旧幼稚園の遊戯室を借りての開催なので、体全体を使った運動あそび、マラカスや鈴や太鼓を使った音あそびや、リズムに合わせて動いたりするリズム遊びや新聞紙やダンボールを使った大きな遊びなどを楽しむことができるので、子どもも体いっぱい使って遊び、体力を発散できたようだ。さらに、子どもの自立を促し、これから保育所（園）や幼稚園に入園する準備段階として、大きな心身の成長となったと感じる。また、保護者にとっては、子どもと離れた2時間を思い思いに過ごされているようで、月に2回のこの時間を計画的に、有意義に過ごし、リフレッシュの機会となったようだ。

【救急救命のおはなし講座】

乳幼児の頃におこりうる家庭での病気や急なけがの話やその対処方法を、救急救命士さんから教わった。子育て中には誰もが不安に思っているにも関わらず、なかなか詳しくは聞く機会がなかったり、育児書等を読んでもなかなか理解できなかったりして、何かが起こってしまったからあわてることが多い。そんな時、「こんな時どうしたらいいのだろう」と不安に思っていることをじっくり聞くことができ、質疑応答の時間は大変多

くの質問が出された。なごやかな雰囲気の中で、具体的にわかりやすく教わったので、いざという時に少しでも慌てず対処できるようになると感じた。また、この講座は保育付きだった為、ゆっくり話を聞くことができたり、参加者同士の交流の時間も子どものことを気にせず話しができたので、いろいろな話題で盛り上がった。

【歯のおはなし講座】

歯がはえ始めたり、そろそろ歯がはえる時期になると、「どうしたらいいか」不安に思い悩むことが多いが、歯科衛生士さんに教わることで、その悩みも解消できる内容となった。また、子どもと共に母親の歯のケアの大切さも教わり、産後子どものことばかりを優先させてしまう母親にとって「自分」の大切さも伝わった。

また、子ども一人一人の歯のチェックをしてもらうことで、一人一人の相談に応じてもらうことができ、より一層安心へとつながった。

【特別イベント「あつまれ！COCOいくっこ！！」】4ヵ月～2歳

普段の“COCOいく”では、同じ月齢の親子の場であるが、このイベントでは4ヵ月～2歳の親子が一同に出会い、月齢の小さい親子は少し大きい子が遊ぶ姿をイメージでき、また月齢（年齢）の大きい親子は小さい子をみることで、少し前とは大きく成長したことを実感できるような場として開催した。40組近い参加者の予約があったが、2月ということもあり、体調不良の方が多く23組の参加となった。

その結果、ねんねの頃の親子は、寝返りやはいはいしている子どもをみて、「わ～もうすぐはいはいできるかな」と少し先の子どもの成長がイメージできたり、はいはいの頃の親子は歩いている子どもについていこうとしたり、しっかり自分で歩いて遊んでいる頃の親子は、ねんねの赤ちゃんを見てちょっと前の小さい頃を思い出したり、いつもの“COCOいく”とは違ったことを感じられた。また、いつもの“COCOいく”の会場のふらっとHOUSEではできない大きな遊びをと、バルーン遊びをした。子どもだけでなく、保護者が楽しめるように、親子でバルーンの中に入ってもらおうと「わ～」「すご～い」と大きな歓声があがり、風と色を存分に感じられたようだ。子どもが楽しく感じるには、まず親が楽しくなければいけないことを伝えられた。

【全体】

毎回必ず取り入れている絵本の読み聞かせでは、普段どんな本を読んだらいいのかわからないという方が多く、月齢に合った本を何度も繰り返し読んでいった。絵本を見て子どもが喜ぶ姿を見て、母親も絵本を楽しむことができ、購入したり、図書館で借りたりと絵本に親しむことができたようだ。ティータイムで、お茶とお菓子を楽しみながら参加者同士交流でき、「誰かと話ながら、ゆっくりお茶を飲む」という普段ではなかなかできないことを楽しんだり、「自分一人ではない」と思える場ができた。また、毎回、子どもの成長の記録や子育てのヒント、季節の歌のプリントなどを綴ったアルバムを作成していった。その中で、参加中の親子の笑顔の写真を毎回プレゼントしアルバムに貼っていくことで、母親は自分の笑顔と子どもの成長をととても喜び好評であった。それらは、母親の孤独感や不安感を軽減し、自信へとつながったいったと考える。

また、兄弟の保育付きで開催したので、上の子どもは保育にあずけ、日頃あまりかまっていられない2人目や3人目の子どもとゆっくり遊ぶことができたことと好評であった。また、会場である「ふらっとHOUSE」が亀岡駅徒歩2分という好立地でもあることから、車に乗れない方の参加が半数近くみられた。普段車に乗れないと、なかなか交通の便が悪いところへは、小さい子どもを連れて出かけることに躊躇するが、会場が駅前ということで、電車やバス等公共交通機関を利用して参加される方にとっては、とても参加しやすい、出かけ

やすい場となった。アンケートでは、「楽しい！」が一番を占め、「友達ができた」「子どもも楽しそうだけど私が楽しい」「子どもとのふれあい方がわかった」「人と話げできた」「相談できた」「もっと来たい」「もっと回数を増やしてほしい」などの意見が多く、多くの方の子育ての楽しみの一つとなったと考える。

全クラスを通して、親子の遊びの中に「抱きしめる」「見つめる」「声をかける」という子どもと向き合って遊ぶことの楽しさや大切さを伝えることができた。また、参加者を10組前後としたことで、スタッフが母親と接するとき「大勢の中の一人」ではなく、「一人の人」として話かけたり、接したりすることで、母親は自ら自分の存在を認め喜び、母親としての自信や、自分への自信へとつながっていった。そのようにスタッフが一人一人の母親とじっくり話し、母親を認めることで、参加するたびに母親の笑顔が増えていった。また、ちょっとしたことでも悩みや不安を気軽に聞ける場であった為、より一層笑顔が増え心が安定し、「不安」が「自信」へと変化していった。

“子育て”において不安や悩みはつきものであるが、当事者でないとなかなかわからなかったり、“子育て”は大変なものときめつけられていて我慢してしまったり、一人でその不安や悩みを抱え込んでいたりする中で、その不安や悩みをどこでどのようにやわらげていけるか、解消できるかが重要な鍵となってくると考える。また、核家族の家庭や、地域とあまりつながりのない家庭では、より一層その不安や悩みを一人で抱え込み、“子育て”がさらに「つらい」ものとなり、親子共に悪循環となっていくと考える。

“COCOいく”では、生後1ヵ月半から保育所(園)・幼稚園へ入園するまで、家庭で子育てをしている親子を心身共にフォローできる場として大切な事業となってきた。初めて親となった母親は「ちゃんと育てなければ」と思いがちで、片意地貼ったり頑張りすぎたりすることがあるが、“子育て”は無理せず頑張りすぎず、ちょっとしたことなら「まあいっか」と笑顔で過ごせ、“子育て”を少しでも楽しむことができるよう働きかけていった。また、「母親が笑顔になると子どもも笑顔になる」「母親が楽しいと子どもも楽しくなる」ことを伝えたことで、まずは母親が毎日を元気に笑顔で過ごせることの大切さを知ることができたと考える。そして、“子育て”は「一人ではないんだ」「地域の人がある」「地域の中にいる」ということを実感できるよう温かく包み込んだことで、親として一人の人としての自信を身につけ、子どもとの生活の楽しさを味わうことができてきたと考える。

“COCOいく”に参加した親子が当団体の他事業である、「ゆりかごひろば(千歳町)」「ゆりかごひろば 亀岡駅前(ふらっとHOUSE)」「一時保育 りとつぽ」を利用することも多くみられ、子育て中の人にとって、より地域とつながることができたことは、当団体が複合的な事業を行っていることで大きな効果があったと考える。また、「ゆりかごひろば」等で少し気になる親子を“COCOいく”につなげ、しっかりフォローできたことも大きいと考える。

また、亀岡市の乳幼児4ヵ月健診や11ヵ月健診などでチラシを配布させていただいたり、亀岡市の広報「キラリ☆かめおか」へ毎回掲載していただいたことで、多くの参加者につながったと考える。公的なところで広報できたことで、本当に情報が必要な方に周知できたり、産後「出かけたたい」と思った母親にとって安心して参加を申し込める場となったと考えられ、協働が事業の効果を一層大きくできた。

全体を通して、子どもの心の安定はもちろん、母親の心の安定を図り、「不安」を「自信」へ変えていくことができ、つらくなりがちな乳児期の子育てを楽しむことができるようになったと考える。その結果、親子の愛着形成を促し、親も子も明日への力を身につけていくことができたと考える。今後も、こういった親子が育つ場が必要だと考え、来年度も引き続き開催していく予定である。そして、現在の母親のニーズに応えながら、

常に母親に寄り添える場になるよう努めていきつつも「大切なこと」「伝えたいこと」「伝えなければならないこと」を伝えていける場としていきたい。そして、母親の心の安定を図り、一人一人の親が力をつけていける場であるよう努めていきたい。

【今後の課題】

各回の参加人数を、母親の心の安定や自信につなげることを目的としている為、定員を少人数の10組としているが、申込みが多くキャンセル待ちの状態が多くあった。勇気を持って参加申し込みの電話をしてきた方ができるだけ参加できるよう、クラス分けなど日程や内容を調整をしていきたい。反対に、申込みはしたものの、子どもの体調や母親の体調不良により、当日キャンセルされる方も多く、参加費収入が不安定であり、継続するには費用的に大きな問題となる。また、参加者の約半数が育休中の母親であることを考えると、家庭で子育てしている人の中でも、育休中の人は仕事に復帰するまでの限られた時間を楽しむ傾向があり、また金銭的にも少し余裕がある為に参加につながっていると感じる。

本事業のような、不安な育児をしている人が親として子育て力をつけ自信を持って子育てができるようになる講座は、定期的開催し、より多くの方がいつでも安心して参加できることが望ましいが、現在の参加費収入だけでは運営費の確保ができず補助金がある時だけの不安定な開催になってしまう。また参加費が1回1,000円というのは限られた人のみの参加に留まっており、本当に受講してほしい方に情報提供しても金銭的なことで参加につながらないことが多く、とても残念に感じている。また、現在の子育て支援といえば、待機児童の削減をめざした保育所整備が主としてあげられることが多く、従来なら乳幼児から保育所に入園させる予定がなかった親子も、保育所へ入園させた方がよいと思ってしまうたり、入園させなければならないという風潮が感じられる。しかしながら、そういった流れは、「保育所でおむつがとれる」「保育所で栄養バランスのよい給食が食べさせてもらえる」と本来なら家庭で行われていた基本的な育児が家庭以外で行われ、家庭で悩みながら、葛藤しながらの育児が減少してくよう不安を感じる。今後、子どもが大きくなり、小学生、中学生と成長し、思春期の不安定な時期に親子が向き合える為には、本当は乳幼児期からの親子のかかわりの深さが大きく関係してくる為、家庭で子育てしている親子の支援を充実させるおいうことも、今後の子ども将来や社会において重要な役割をしめると考える。そういったことを踏まえ、亀岡の子育て環境の改善にむけて、亀岡市の子育て支援制度として取り組まれることを期待している。

4. 協働の効果

※企画提案型協働事業のみご記入ください。

事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

【はじめてくらす (ベビーマッサージ)】



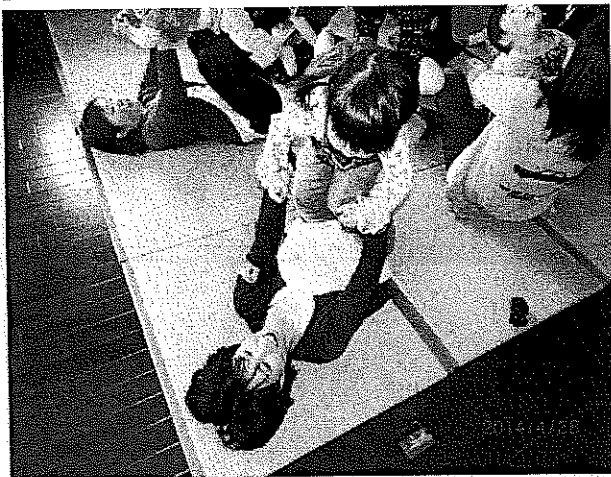
【ぐっぐくらす】



【ちっちくらす】



【ぱっぱくらす】



事業報告書

団体名：アニマルネットワーク亀岡

1. 事業名	ペットの終生飼育と命に優しい街づくり
2. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)

1. 写真集「ラストチャンス」(児玉小枝)写真展・資料1

期間 2014年9月13日(金)～15日(月祝)

場所 ガレリアかめおか1Fホール

内容 昨年の亀岡市支えあいまちづくり支援金事業で「東日本大震災の同伴避難」についての講演会で講師をしていただいたフォトジャーナリスト児玉小枝氏の最新の写真集「ラストチャンス」より写真展を開催。

「ラストチャンス」は、動物管理センターという殺処分施設から譲渡された子犬が新しい飼い主の元で信頼関係を築きながら家族の一員となっていく過程を綴ったもの。

来場数 3日間合計 男性207名 女性271名

チラシ印刷 100枚・資料2

ポスター50枚・資料3

2. 同時開催 写真による譲渡対象の犬・猫紹介

保護主の元新しい飼い主を探す犬・猫の写真を展示し、ペットショップやブリーダーからだけでなく犬・猫を家族として迎える方法を紹介し、希望者には審査(ペットを迎え入れる条件)、トライアルを経て譲渡した。審査に関しては、当会の譲渡条件とアンケートを参照・資料4・5

事業計画書に記載した京都府動物愛護管理センター収容中で譲渡対象の犬・猫の写真紹介に関しては、日々犬・猫の入れ替わる現状から、写真ではなく譲渡情報のホームページの紹介を希望されたので、信頼できる譲渡情報サイトと共にチラシとして希望者に配布。資料6

また、犬・猫を可愛いや可哀想というその場の感情で安易に迎え入れないように、命を引き受けるには覚悟がいることをわかりやすく漫画で描いたパネルを展示。

3. 会場内に動物相談窓口を設置

犬を飼っている人に迷子札を装着させる事の大切さを伝える、誰が見てもわかるオリジナルDVDを作成して会場に設置 DVD・資料7

迷子札、うんち袋を配布して、飼い主のマナー向上と迷子による持ち主不明犬の処分数を減らす。

相談件数 6

(野良猫に関する事・4 犬の躰に関する事・2)

京都府・南丹保健所職員視察の際に内容を報告

3. 効果

実施による効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。

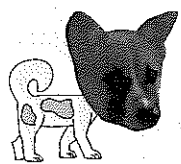
番号は実施内容の番号に順ずる

1. 昨年、東日本大震災の同伴避難の写真集講演会で反響のあった児玉小枝氏の写真展だけに多くの人が足を運んでくださった。児玉小枝氏の協力の良い写真のチラシやポスターが仕上がったので、集客も多かった。しかし、多くの方が写真展よりも時間をかけて見てくださっていたのが、譲渡対象の犬・猫の写真。
"今はもう年で飼えないけれど、依然飼っていた子に似ているので気になる"
"飼い主が見つからないとどうなるの?"
心配や活動に対して励ましのお声を頂けた。
また、動物管理センターは怖い所というイメージを持っている方が多く、児玉小枝氏の写真を通して受け入れ先のひとつとして紹介できたことは意義があった。
2. 写真による譲渡対象の犬・猫の紹介での譲渡成立
子猫・・・1 犬・・・1 外猫の成猫・・・2
外猫とは、野良猫を当会の役員が地域猫として世話をする中で人なれして飼い猫として暮らしていけると判断した猫だけを動物病院で検査して猫エイズ、白血病等の陰性結果が出たもののみを譲渡するもの。
責任をもって地域猫活動をすることで、野良猫の数を減らす試み。
譲渡先は全てを理解の上、野良猫を飼った経験のある方を選考。
子猫、犬共に数件の希望があり、アンケートや飼育環境から選考。
2週間のトライアルの後正式譲渡。
3. 事業前の相談は、行政からの依頼が主流
 - ・南丹保健所より、飼い猫子猫4匹の里親探し
 - ・亀岡警察より、紀州犬ミックスの里親さがし
 - ・京都府動物愛護管理センターより多頭飼育の犬の里親探し
 - ・警察より、離乳期の子猫3匹の保護事業後の相談は、個人からの依頼が増える
 - ・家の前に捨てられていた子猫の保護と里親探し・・・資料8
 - ・ペットを飼うにあたり子供への教育資料の請求・・・東京都の出している冊子の取り寄せ協力行政の依頼は動物は行政機関で世話され、探す依頼であるが、個人からの依頼は保護もして探して欲しいというのが多くシェルターをもち、少人数の当会には荷が重い依頼もある。
一緒に動く（生態は依頼者が世話をする）意志をしめしていただいた依頼を受け、現在進行形で活動を続けている。



写真集「ラストチャンス」写真展の様子

資料 1

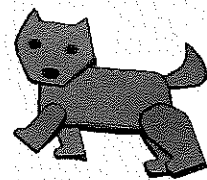


ぼく
僕のお話を

はなし

ぼく
僕のお話

はなし



「亀岡市支えあいまちづくり協働支援金」交付事業

動物愛護週間イベント

9月13日(土) ~ 15日(日祝) 10:00~17:00

●見玉小枝写真展「ラスト・チャンス！」

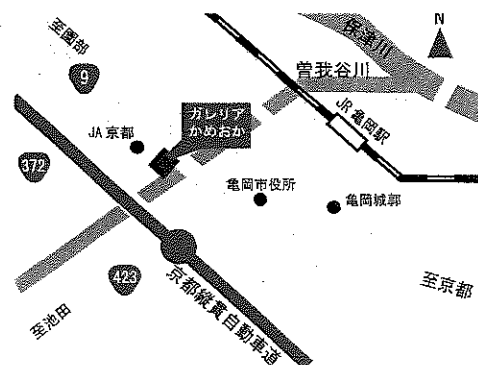


©見玉小枝「ラスト・チャンス！」(WAVE出版刊)

- 動物愛護ビデオ上演
- 家族を待っている犬・猫の写真による紹介コーナー
- 動物相談窓口など

ギャラリーかめおか 1階ロビー

亀岡市余部町宝久保1-1



主催
お問合せ
メール

アニマルネットワーク亀岡
080-3130-2276
wan.nyan.kameok@59.tbank.ne.jp

事業報告書

団体名：ほづがわチャリティ・ファンラン実行委員会

1. 事業名	ほづがわチャリティ・ファンラン
2. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)
<p>本事業は、大人から子供まで、自然豊かな保津川の景観の中を、それぞれの体力に応じてランニングを楽しむことで、新たなスポーツ文化を創造するとともに、スポーツを通じた「チャリティ」によって、今後の保津川にかかわるさまざまな市民活動を継続的・自立的に支える仕組みの構築をめざして実施したものである。</p> <p>【事業概要】</p> <p>日にち：2014年11月30日(日)</p> <p>会場：保津大橋下流(新堤防)をスタート・ゴールとし、保津河川敷を周回するコース (1周 2.5km、10km・5km・2.5km・フリー・ウォーキングを実施)</p> <p>対象者：すべての市民ランナー(幼児からシニアまで全年齢を対象)</p> <p>参加者数：事前エントリー285名、当日エントリー97名 合計382名(前年358名)</p> <p>ボランティアスタッフ：77名</p> <p>参加費：大人2500円・中高生500円・小学生以下200円(新たにチーム割引(1割引)を追加) ※当日エントリーは、大人3000円・中高生800円・小学生以下300円</p> <p>【今年度の重点的な取り組み内容】</p> <p>今年度は、保津川の景観を楽しめる新コースの設定と広報体制のさらなる整備を重点的に行い、今後の継続的かつ発展的な取り組みにつなげるよう事業を推進した。特に広報については、ホームページのほか、ランナー向けの情報サイト、Facebookの広告機能を積極的に活用して情報発信を行った結果、前年を上回る応募を得た。</p> <p>【寄付について】</p> <p>参加者から徴収した参加費は、(公財)京都地域創造基金に設置された「母なる川・保津川基金」に収益の全額を寄付することとし、前年度なみの約30万円を寄付できる見込みである。</p> <p>【その他】</p> <p>当日、会場には地域の特産品などの物産販売ブースを設置し、好評を得た。また、医師および看護師院に救護班を依頼するとともに、ボランティアスタッフに事前に救急救命講習を実施し、万全を期した。</p>	
3. 効果	実施による効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。
<p>本事業の実施は多数の団体との協働によって実現した。一連の取り組みを通じて、大会のスムーズな運営が実現しただけではなく、団体間相互の理解も深まったことが大きな成果であった。以下では、分野ごとにその成果を記す。</p> <p>【事務局運営】</p> <p>参加者の受け付けや問い合わせへの対応など、事務局の作業量は膨大であったが、前年に引き続きNPO法人プロジェクト保津川とNPO法人亀岡子育てネットワークの協力をえて運営にあたった。具体的には、プロジェクト保津川が問い合わせ対応、行政との各種手続きやホームページ、SNSサイトの運営を担当した。また、亀岡子育てネットワークは物品整理や各種書類の発送や書類作成にあたりとも</p>	

に、ポスターやチラシ、ホームページの制作をおこない、円滑なパートナーシップのもとでスムーズな事務局運営を行うことができた。

このほか、前年度に引き続き、託児サービス（有償）およびキッズスペースの設置を行った。これまでは小さい子供を連れてのスポーツイベントへの参加は難しかった人も多く、大変好評であった。

【市民団体・企業・個人との協働】

市内の各種団体を通じてボランティアスタッフの募集をおこなうとともに、当日のブース出展も募った。結果、ボランティアスタッフは前年度（66名）を上回る77名の参加を得ることができ、スムーズな大会運営が実現した。

また、懸案事項であったスポンサーの獲得については、京都信用金庫、久光製薬からは協賛金や協賛品の提供をいただいた。また、物販ブースの出品者からは売り上げの一部を寄付いただいた。さらに、サッカーチームであるA.C.infiniや保津川トライアスロン倶楽部、(株)ピックスマイル、(株)ヤマキ、保津川遊船企業組合といった市内のスポーツチームや企業からは、物品の提供やスタッフの応募をいただき、スムーズな大会運営が実現した。さらに、保津町自治会や保津おやじの会、亀岡市役所、カップ研究会、京都地域創造基金からも、ボランティアスタッフの派遣、資材の提供などをいただくなど、地元の各種団体の積極的な協力も大きなものであった。そのほか、福岡県はじめ遠方からの参加者も多く。また、個人でのボランティアとしての参加も多数あり、前回大会を上回るボランティアスタッフを確保することができた。

【行政機関との協働】

本事業は河川敷を利用したものであったが、管理者である京都府南丹土木事務所からは、一時使用の許可申請に関して適宜、アドバイスをいただいただけではなく、「ほづがわかまちづくり」のPRの一環として積極的な協力をいただいた。特に、コースの選定や準備にあたっては、保津町自治会および沿道の住民のみなさんにも協力を要請いただくなど、多大な協力をいただいた。

また、亀岡市からは、前回大会に引き続き本支援プログラムだけではなく、亀岡駅周辺でのノボリの掲示、各種広報媒体での掲載、マスコミへの告知に多大なご協力をいただいた。特に、市内の幼稚園・保育園、小中学校でのチラシ配布は、その効果も大きかった。また、上下水道部からは年谷浄化センターの駐車場としての利用、参加賞としての飲料水の提供などをいただいた。一連の市からの積極的な、大変ありがたいものであった。

4. 協働の成果	※企画提案型協働事業のみご記入ください。 事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。
-----------------	---

本事業は、近年のランニングブームの高まりを受け、保津川という本市を代表する自然空間を走ることをつうじて、その収益により環境保全など市民の活動を支援することを第一の目的として開催した。積極的な情報発信につとめた結果、台風18号による大きな被害があった後にもかかわらず参加者数は目標の300人を上回る382人を得ることができ、寄付金も目標の10万円を上回る約30万円を集めることができた。

本大会は市外からも積極的に参加者を募り、交流人口の増加に貢献することをめざしていたが、近畿2府4県のほか東京・岡山・香川・福岡などからの参加者もあった。「京都観光のついでに」として参加される方も多く、ゴール後には保津川下りに乗船される方や丹波 EXPO に参加される方も多くみられ、

本市の観光振興にも貢献することができた。

特に、情報発信は積極的に行い、亀岡市内および京都市内でのチラシやポスターの配布・掲示に加え、一般的なホームページのほか facebook での情報発信にも力を入れた。特に facebook での広報は、広告も出すなど力を入れ、1日に500人を超えるアクセスを達成した記事もあった。さらに、facebook を通じて、保津川遊船など地元企業による広報も実施して頂いた。

本事業のもう一つの目的は、市民の積極的な参加を通じて、故郷である亀岡への愛着を深めることにあったが、選手だけではなく、ボランティアの参加（個人・団体）も多数実現した。個人のボランティアは、前回は大きく上回る77人となった。なお、スタッフには説明会とあわせて亀岡消防署による救急救命講習も実施するとともに、医師や看護婦に救護スタッフとして参加いただくなど、万一にも備えたが、そうした経験の蓄積も、今後の大会運営にとって欠かせない貴重なノウハウの蓄積となった。また、地元である保津町自治会はじめ亀岡市内の各種団体の協力もいただき、NPO など比較的新しい市民団体との交流の場とすることもできた。

さらに、今年度は南つつじヶ丘太鼓のみなさんによる演奏の申し出もいただき、スタート時に演奏していただいたが、ランナーだけではなく、演奏した子供たちからも普段とは異なる場所での演奏は良い経験になったと好評であった。また、A.C.INFINI からも中学生・高校生の選手のボランティアとしての参加が多数あり、エイドステーションの運営にあたってもらったが、こちらもランナーはもとより選手の満足度も高いものであった。

今回は天候にはめぐまれ、また保津川沿いの新コースも好評で、SNS やブログ、動画サイトには参加者のみなさんのレポートも多数掲載されたことも今回の特徴である。ただ、来年度は同時期にハーフマラソンが予定されているため、開催時期の再検討も必要である。

年末の忙しい時期にも関わらず、参加者の満足度も高く、また多くの市民の協力も得られた。この経験を踏まえて、さらにこの事業を発展させ、市民と企業、行政の協働を進め、市民や地域の活動資金を自立的に獲得するロールモデルとなることをめざしたい。

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

第3回

ほづがわ

チャリティ・ファンラン

HOZUGAWA
3rd CHARITY
FUN-RUN

@hozugawa_funrun

ほづがわチャリティ・ファンラン
find us on Facebook

母なる川・保津川基金
Hozu River Co. Kyoto
収益は、母なる川・保津川
基金に寄附されます。

カラダと自然にいいことしよう!

<http://hozugawa-funrun.org/>

ランナー&
ボランティアスタッフ
募集!

ウォーキング
コースあり!

チャリティ・ファンラン



紅葉の保津川を流すFUN-RUN

託児サービス
あります!

★保護者同伴で利用可能な
キッズスペースも
あり!

自然の中を楽しく、気持ちよく走り、ふるさとの川をみんなの力で守る。「カラダと自然にいいことしよう!」を合言葉に第3回ほづがわチャリティ・ファンランを開催します。水の音や鳥のさえずりを聞きながら、悠々と流れる紅葉の保津川のほとりを思い思いのペースで楽しみながら走っていただけます。ぜひ、ご参加ください!

2014年 11月30日(日) 10:00~14:00 (受付: 9:00~12:00)

《雨天の場合12月7日(日)》

会場 保津橋周辺の河川敷一帯

事前
エントリー
期間

2014.9/10~10/31

記念品・割引あり! 当日エントリーも可

チームで参加
してみませんか?

割引あり!

詳しくはHPを
ご覧ください

主催: ほづがわチャリティ・ファンラン実行委員会 (NPO 法人亀岡子育てネットワーク、NPO 法人プロジェクト保津川、保津川トライアスロン倶楽部)

後援: 京都府南丹広域振興局、亀岡市、(公財) 亀岡市体育協会 (申請中を含む)

協力: (株) アオキカヌーワークス、一亀一遊、A.C. Infini、NPO 法人ふるさと保津、

(有) 隅田農園、(株) ビックスマイル、保津おやじの会、保津川游船企業組合、

63

協会、京筏組、京・くろかる隊、篠町自治会、
会、みずのき美術館、(有) 山内スポーツ (申請中を含む) 五十音順

協賛: 京都信用金庫

第3回ほづがわチャリティ・ファンランは、亀岡市支えあいまちづくり協働支援金を受けて運営しています。

走って保津川きれいに

亀岡で350人
チャリティ大会



保津川沿いのコースを走るランナーたち(亀岡市保津町)

キングなど5種目に約350人が出場した。ランナーらは晴天の下、自らのペースで、紅葉の山と川を楽しみながら快走。地元の人たちから「がんばれ」と声援を受けながら、ゴールを目指した。

(久保田昌洋)

参加費が保津川(桂 抜けた。

川)の環境保全に活用される「ほつがわチャリティ・ファンラン」が30日、亀岡市保津町で開かれた。府内外から集まったランナーたちが、保津川下りの船を眺めながら、川沿いや田園のコースを駆け

NPO法人プロジェクト保津川などでつくる実行委の主催。参加費は、京都地域創造基金が運営する「母なる川・保津川基金」を通して、保全団体などへの助成金になる。10歳、5歳、ウオー

事業報告書

団体名：NPO 法人亀岡子育てネットワーク

1. 事業名	Gyutto 特別号
2. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)
<p>田舎よりも都会、緑豊かな自然よりも映画館やショッピングモールに憧れを持つ小中学生に自然豊かで歴史や文化が数多く残る亀岡の素晴らしさを教科書とはまた少し違う視点で紹介する冊子の製作。</p> <p>【概要】 ページ数：12 ページ カラー 部数：12000 部 対象：主に亀岡市内の小中学生 配布先：亀岡市内小中学校、市内公共施設（市役所・図書館・ギャラリーなど）、自治会</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 亀岡という名前の由来、亀山城について ・ 各学校で取り組んでいる「ふるさとを学ぶ授業」の紹介 ・ 校歌の歌詞の中にある風景の紹介 ・ 篠町のめがね橋の清掃活動と長尾山の整備の紹介 ・ 城下町に残る歴史上の人物とゆかりのあるところの紹介 ・ 亀岡出身、またはゆかりのある方々に聞く亀岡の好きな場所の紹介 ・ 難読地名と方言のクイズと亀マニアクイズ（冊子を読めばわかる問題） 	
3. 効果	実施による効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学校へ配布したことで、亀岡の全小中学生に読んでもらえた。 ・ 小学生は表紙の「あったかいんだからあ♪」で興味を持ち、クイズなどを面白がって読んでくれた模様。中身を読まないでクイズの正解がわからないようにしたのはよかった。 ・ 中学生も配布早々熱心に読んでくれていた子が多かったそう。自分の通っている（通っていた）小学校のことが書かれていたので、それも子どもたちには親近感があつたようだ。 ・ 校歌を紹介する記事を見て子どもたちの中で「じゃあうちの学校の校歌の〇〇はどこの山なん？」という会話が生まれた。校歌の歌詞に興味を持ち「なんだろう」と探究する気持ちが高まったという点では効果があつたと思う。 ・ 南丹高校の社会科の地域の歴史を学ぶ授業で、この Gyutto 特別号を取り上げてくださることになった。 	

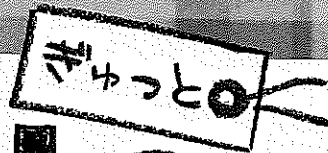
4. 協働の効果	<p>※企画提案型協働事業のみご記入ください。</p> <p>事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・市との協働であったことで、各学校への取材、配布などとてもスムーズに行われた。校歌では各小学校に伺い、そこから見える景色を撮影させていただいたほか、校歌の意味も取材。「ふるさとを学ぶ」では取組内容を各校の先生方に原稿依頼。民間だけではなかなかここまで協力して頂くことは難しく、そういう意味では協働事業だからこそ製作できた冊子だと考えている。 ・亀岡市都市計画課、教育委員会、文化資料館の職員さんたちの専門的な知識で企画や校正の際にアドバイスや指摘をいただいたり、広報課から丹波霧の写真を提供していただいたりと、様々な部署の方々と一緒に製作することができた。 	

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

亀岡の小・中学生におくる

亀岡の子育て応援情報誌



Gyutto

2015
特別号
保存版
無料

知ってみたい 亀岡

あったかいんだからあ

いいところあげれば 中々 がない!



市内18小学校が全面協力!

「平成26年度和岡市支えあいまちづくり協働支援金事業」で制作しました

たんぼざり
丹波森の写真 亀岡市提供

